

平成 28 年度取り組み内容および達成状況

1 <中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸張させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立 100 周年までに、浪商ブランドを確立する。
ブランド：泉州地域を代表する進学校。大阪を代表するスポーツエリート校

2 <重点目標>

☆スポーツと進学の本を柱にした学校の構築を目指すため、次の2点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。

- ①学習活動を充実させる。
- ②部活動において成果を発揮する。

☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。

- ③進学指導マネジメントシステムの構築
- ④進学実績の成果向上
- ⑤中高一貫体制の確立

☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。

- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
- ⑦人権教育・安全教育の充実

3 <目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点目標	平成28年度 具体的な取り組み内容と達成状況	平成29年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・三段階指導の充実を図るために各コースに応じた授業を展開し、生徒の成績向上に努めたが、各コースの目標進路実現まで引き上げることはできていない。<C> ・授業力向上のための若手教員の研修や検討会などの開催<A> ・進学総合Sクラス、進学スポーツコースには、有名私大文系を受験できるように指導したが意識はまだ低い ・IⅡ類コースへは手厚い学習指導を継続し、進学実績の向上を目指した<A> ・システム手帳の活用を意識し自己管理能力を高める指導を継続して行った。 ・コースによっては朝読に取り組むことが難しく読書の習慣づけの定着は図れなかった<D> ・漢字検定の1年全員受験、漢字検定対応のeトレの導入で積極的に取り組む生徒が増えた。数学検定は教科の合格目標数を達成した。英語検定の学校実施など積極的な働きかけを行った<A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ意義をどう育むかをコースごとに実態把握を行ないそれぞれの方策を再検討する必要がある。 問題を全体 or コースごとに分け、洗い出しと対策の検討 ・教科内での研究や研修の実施 ・進学総合Sクラス、進学スポーツコースのカリキュラムを一部変更することで有名私大の受験を促す（2年より古典科目の選択可） ・放課後、長期休暇中に外部講師による学習サポートの強化の導入 ・システム手帳の活用をさらに推進し、自己管理能力を高める ・読書の意義を教員間で共通認識することから再度始める必要がある ・「ワタシの一行」などの取り組みを通して読書習慣を身につけさせる ・eトレの利用者をさらに増やし、主体的な学習の姿勢の構築を図る ・自習室の確保と整備 ・英語の4技能習得の充実に向けてALTの導入

<p>② 部活動の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブ実績 <ul style="list-style-type: none"> ○ハンドボール部：全国IH3位、国体12名出場、日本代表4名、アジア選手権準優勝、U19日本代表3名、など多数<S> ○陸上競技部：全国IH2名全国選抜4位、国体1名4位、近畿ユース100m優勝<A> ○水泳部：全国IH20名出場、1名入賞、国体3名1名4位<A> ○器械体操部：全国IH2名、国体1名<A> ○女子バスケット部：近畿大会出場<A> ○他強化クラブ：大阪大会で健闘 ・一般運動クラブ実績 <ul style="list-style-type: none"> ○レスリング部：全国大会出場<A> ○日本拳法部：全国大会出場<A> ・学外クラブ実績 <ul style="list-style-type: none"> ○ボクシング：大阪大会優勝、近畿大会準優勝、全国高校選抜ベスト8 ○競技エアロビック：全日本3位、世界大会出場<A> ・文化クラブ <ul style="list-style-type: none"> ○個々のクラブは少人数ながら地道に活動しているが部員数は増えない。文化部合同イベントなどを春、冬に数回開催し、それなりの成果を上げたが部員獲得には至っていない<C> ○生徒に生け花体験（卒業式、入学式の花で）や季節の飾り物などの作成をさせることで文化活動のきっかけを提供した<A> ・2年連続で「こころの再生府民運動」スクール表彰<A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・強化クラブは、大阪代表として全国大会出場および入賞を目指す。 ・一般運動クラブは、大阪の強豪校を目指す。 ・中高大連携（施設、指導など）によるクラブ指導による強化を図る ・専属トレーナーの登用 <ul style="list-style-type: none"> けが予防、リハビリ、トレーニング、的確な運動理解を通してクラブ全体の活性化に向けた取り組みを強化する ・文化部はさらに合同イベントなどで存在感をアピールする共にスポーツフェスティバル参加など新しい取り組みにも積極的に取り組む ・主体的な活動、ボランティア活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> 野球部の地域の清掃活動だけでなく、スポーツフェスティバルの積極的参加や地域へのボランティア活動にも目を向ける。 ・文化部の充実に繋げるきっかけとしてひまわりの会（女性教職員の会）主催で文化講座を月1回開催する
<p>③ 進学マネジメント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進学については、個々の生徒の成績推移をより細かく追跡分析し、それぞれに応じた進路マネジメントを確立した<A> ・外部での模擬試験受験などに積極的参加させることで刺激を受け意欲につながった<A> ・内部進学・推薦入試については、安易な選択をさせないためにいろいろな課題や取り組みの仕組みを作った ・3年間を見通したキャリア教育のカリキュラムが完成し、進路決定への姿勢など少しずつ成果も現れてきている。<A> 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員間で生徒の成績推移や課題などを共有することで系統的な指導を進める ・安易な選択をさせないための3年間を通したキャリア教育の構築を意識して総合学習のカリキュラムも未来を見据え改善を繰り返す ・外部の刺激だけでなくコース間での競い合いで切磋琢磨できる工夫を考案する ・新テストに向けたプレテストの早期導入及び対応力の分析、指導法の確立に向けた取り組み

<p>④ 進学実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全てのコースに渡って、個々の進路希望を優先させつつ、大学合格実績の向上を目指した。＜A＞ ・I II類については、国公立大学への合格者、進学スポーツコースについては、有名私大への合格者を出すことができた。＜A＞ ・大阪体育大学への内部推薦については、学力面、競技面ともに丁寧に指導した。＜A＞ ・他大学への推薦入試については、生徒への周知方法・選考方法など確立されたものになってきた＜A＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・さらなる大学合格実績の向上を目指す。 ・これからの新課程を踏まえ、主体的な学びや探求的、協働的な学びの機会を授業の中だけでなく、いろいろな場面で設定する。たとえばボランティア活動や特別活動などにも目を向けさせる。 ・合格決定後の学力維持、向上のための意識づくり
<p>⑤ 中高一貫体制の確立</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一体運営については、学校行事や試験日程の中高一貫を実現したが中身についてはさらに検討、改良が必要である。＜C＞分掌についても、中高一貫運営をして協力体制も進んではいるが、いろいろな場面での調整が必要である。＜B＞ ・中学3年生の浪商高校への進学を促すための説明会や体験会を丁寧にいった。＜B＞ 中高教員の所属や授業学年に流動性を持たせた。また全教員が中高の教育内容を周知するように中高教員一体の教科会議を持った。＜C＞ ・広報募集については、広報部を設置し、入試対策室と教員の連携を深めた。また説明会などは生徒の協力もあり充実したものになってきた。＜A＞ただし授業中の生徒の協力は授業を優先させる観点からも工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事に関しては形だけの一体運営ではなく、主旨と獲得目標を明確にして6年間でどのように生徒が成長していくか見通しを持った内容検討と抜本的な改革が必要がある。 ・H30年度入学の中高一貫1期生の受け入れの準備を進める。教科会議や分掌会議などでも研究と調整の検討をする ・広報募集の現行の点検見直しとさらなる取り組みの模索 ・中高合同での教科会議、分掌会議の継続による一貫体制の確立のために問題の整理と共通認識が必要である ・始業式、終業式などの式典の合同開催
<p>⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・規範意識の向上について、全校集会・学年集会・担任指導・クラブ顧問指導を通じて指導しているが、コースにより課題も違うので、対応の仕方も変える必要がある。＜C＞ ・授業規律アンケートなどで授業環境を改善するよう努めたが特にアスリート、進学総合を重点的にテコ入れする必要がある。学習以前にきちんと人の話を聞く姿勢を身に付けさせることが急務。＜C＞ ・自転車指導については、道路交通法の改正や保険加入の条例化を踏まえ、一層指導を強化した。＜A＞ ・生徒会については、自主的に取り組ませるには、顧問団の人数や役割を考えると困難である。＜D＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識調査などを丁寧に分析してコースにあった指導方法を構築していく。 ・ベル着の指導の徹底を図る まずは授業の導入に着目してすべての授業できちんと授業が開始できるようにする。 →2分前チャイムの導入検討 ・I II類生徒会支部を立ち上げて本校での生徒会活動のありかたを模索する。 ・オリンピック・パラリンピック教育校として教科や特別活動、生徒会活動などでの取り組みの計画を立てる。 ・マナー講座の導入（2年） ・校内駐輪場の整備とマナーアップに向け運動部員による協力を要請

<p>⑦ 人権教育・安全教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人権学習については、ピアサポートトレーニングの導入やいじめアンケートなどを行った。＜A＞ ・問題が生じたときに、管理職を含めた対策チームを設置し迅速に対応した。＜A＞ ・安全教育については、新しい工夫を加えながら実施した。保健便りを定期的に発行し、インフルエンザへの注意喚起に努めるなど。＜A＞ ・支援を要する生徒には、より早い段階で生徒個々の実態を把握し、具体的な連携・役割分担、生徒・保護者への支援を推進した。＜A＞ ・問題が発生した時の対応の流れが不明確で全教員への状況説明のタイミングが遅すぎて教員間で共通認識が持ちにくい＜D＞ 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめアンケートの実施など継続的に発達に応じた取り組みを進める。 ・スクールカウンセラーとの連携、全教員に周知徹底し、協力体制を作る仕組みづくりを構築していく必要がある
--------------------	---	--

※達成状況は次の5段階評価で示す

＜S＞よく達成できた ＜A＞まあまあ達成できた ＜B＞どちらとも言えない
 ＜C＞あまり達成できていない ＜D＞まったく達成できていない

Vol. 1 2017.9.28.

Vol. 2 2017.9.30